

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

僕らは、
音の向こう側に
夢を見る。

ブラームス
ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
Brahms: Piano Concerto No.2 in B flat major, op.83

ブラームス
交響曲 第3番 へ長調 作品90
Brahms: Symphony No.3 in F major, op.90

指揮 **上岡敏之**

Conductor: TOSHIYUKI KAMIOKA

ピアノ **デジュ・ランキ**

Piano: DEZSO RANKI



©Janos Huszti

コンサートマスター(ゲスト)
デヴィッド・ノーラン
Guest Concertmaster:
DAVID NOLAN

読売日本交響楽団 第531回 定期演奏会
2013年

11月22日(金)19時開演

サントリーホール

S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C **SOLD OUT**

The 531st Subscription Concert/Fri., 22 Nov. 7p.m./Suntory Hall

読売日本交響楽団 第160回 東京芸術劇場マチネーシリーズ

11月24日(日)14時開演

東京芸術劇場コンサートホール

S ¥7,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000

ジュニアシート(大人同伴の小中高生) ¥1,500

The 160th Tokyo Metropolitan Theatre Matinée Series
Sun., 24 Nov. 2p.m./Tokyo Metropolitan Theatre

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成:文部科学省文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)
協力:アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)(11/22) 事業提携:東京芸術劇場(11/24)

お申し込み・お問い合わせ
読響チケットセンター 0570-00-4390 10時-18時
年中無休
<http://yomikyo.or.jp/>

©読響(撮影:浦野俊之)

K a m i o k a B r a h m s

魅惑のマエストロ 上岡敏之

江藤光紀(音楽評論家)

ドイツではコンサートやオペラは市民生活に密着した娯楽だ。小さな街の聴衆も耳が肥えている。だから劇場を率いるマエストロは大変だ。雑事もこなしつつ、安定した演奏をする…それだって並大抵のことではない。だが、それ“だけ”ではすぐに飽きられてしまう。足を運ぶたびに思いがけない発見をして、「次は何がおこるんだろう?」というわくわく感につなげなければ。それは大都市だって地方都市だって同じことだ。

耳の肥えた聴衆を毎回満足させられる指揮者はそうはいないから、それができる指揮者はひっぱりだこだ。上岡はまさにそういう指揮者だ。彼がヴッパータールのオーケストラの芸術監督についてから、この楽団が快進撃を始めたことは知っている人も多いはず。その後、ザールラント州の劇場が上岡に音楽監督を依頼した。ところがヴッパータールも上岡を離さなかった。だから上岡は今、二つの街で要職を引き受けている。ザールラントでは音大でも教えているから、ものすごく忙しいはずだ。

どんなに忙しくても、上岡は舞台ではいつも全力投球。袖から颯爽と現れるや挨拶もそこそこに力強くタクトを振りおろす。すると指揮棒の先、振り乱した前髪、いや全身いたるところからエネルギーが放射されて、ホールいっぱいに気迫が広がる。解釈だって独特だ。ときに思いがけないひねり技を効かせる。聴き手は最初「えっ?」と思う。だがそれが結構ツボにはまって、「ぐっ」とくる。もう何度も聴いた曲、知り尽くしているはずと思っている曲が、そんなふうに変う表情で現れる。

そんな上岡のカリスマ性が、日本の聴衆もだんだん気になり始めたようだ。このところ年に1、2度は東京のオーケストラを振っている。一度会場に足を運んだ人は、「えっ?」と「ぐっ」から生まれる「わくわく感」の虜になってしまうのだ。だから聴衆が増えているのだろう。

昨年1月に続いて、上岡はまた読響の舞台に立つ。読響は上岡のドイツでの評判をまっ先に聞きつけて招聘した楽団で、共演経験も長い。そしてまたドイツ風の重心の低い演奏が持ち味でもある。2曲のブラームスというプログラムだが、もういろんな演奏を何度も聴いてきたという人にこそお勧めしたい。上岡が振ると、何かが起こるよ、と。

「ピアノ協奏曲 第2番」のソロ、デジュ・ランキは貴公子然とした佇まいが以前から人気だった。日本ではしばらく姿を見かけなかったが、いつのまにかロマンスグレーの似合う紳士へと変貌していた。落ち着いた典雅な演奏は以前より洗みを増している。おおらかでスケール感のある歌を紡いでくれるはずだ。



指揮 上岡敏之
Conductor TOSHIYUKI KAMIOKA

独自の解釈と表現でファンの心を掴んで離さない人気指揮者。ドイツの歌劇場でたたき上げのキャリアを築き、1998年に読響との共演で日本デビュー。以来、読響とは定期的に共演を続けている。

東京生まれ。東京芸術大学で、指揮、作曲、ピアノ、ヴァイオリンを学ぶ。ハンブルク音楽大学に留学し、K.ザイベルに指揮を師事。キール市立劇場のソロ・コレベイトール、カベルマイスターとして歌劇場でのキャリアをスタートさせ、エッセン市立アールト劇場の第1カベルマイスター、ヘッセン州立歌劇場の音楽総監督を務めた。北西ドイツフィルの首席指揮者を務めたほか、ハンブルク響、ケルン放送響(WDR)などと共演。

現在は、ザールラント州立歌劇場の音楽総監督と、ヴッパータール響の首席指揮者を務めながら、ザールブリュッケン音楽大学の指揮科正教授の要職にある。



ピアノ デジュ・ランキ
Piano DEZSŐ RÁNKI

瑞々しい自然体の優美さでファンを魅了するハンガリー出身のピアニスト。

フランクフルト音楽院で学び、バル・カダシに師事。1969年にドイツのロベルト・シューマン・コンクール優勝を期に国際的な活動を開始。これまでに欧米の主要都市におけるピアノ・リサイタルで名演を多数披露。また、ルツェルン、プラハの春などの音楽祭にも出演。メータ、ザンデルリンク、マゼールら著名な指揮者、ベルリン・フィル、ロンドン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管等のオーケストラと数多く共演。

日本では初来日の1975年からシフ、コチシュと並び「ハンガリーの三羽ガラス」と呼ばれ人気を博し、2012年秋のツアーではドビュッシー生誕150周年を記念しリサイタルを開催、ひときわ注目を浴びた。

2013 11月22日(金) 19時開演

読響日本交響楽団 第531回 定期演奏会
サントリーホール

料金 S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ~~SOLD OUT~~

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001 (オフィス)
東京メトロ南北線 六本木一丁目駅(3番出口) 徒歩約5分
東京メトロ銀座線 溜池山王駅(13番出口) 徒歩約7分

● 学生券: 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

● 団体割引: 読響チケットセンターにて同一公演の1回券を10枚以上まとめてお求めになった方に団体割引をいたします。

2013 11月24日(日) 14時開演

読響日本交響楽団 第160回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール

料金 S ¥7,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000
ジュニアシート(大人同伴の小中高生) ¥1,500

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111 (代表)
池袋駅西口より徒歩約2分(駅地下通路2b出口と直結しています。)

● 注意事項: 東京芸術劇場には一時託児施設があります。芸劇キッズルーム muse(ミュージズ) 03-3981-7003

● 都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。

● 未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター ☎ 0570-00-4390

(10時-18時・年中無休)

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席をお選びいただけます。*ご郵送の場合、送料は無料です。

前売所: チケットぴあ 0570-02-9999 イープラス <http://eplus.jp/> サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 [11/22公演分] 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 [11/24公演分]